

農試第 162-4 号
令和元年 5 月 8 日

各関係機関の長 殿

福井県農業試験場長
(公印省略)

農作物病虫害発生予察注意報第 1 号の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

連絡先 福井県農業試験場 病虫害防除室 TEL 0776-54-5100(代表) 0776-54-9315(直通) FAX 0776-54-6403 E-mail byogaichu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp

令和元年農作物病虫害発生予察注意報第 1 号

4 月下旬以降のフェロモントラップにおけるカブラヤガ成虫の誘殺数が平年の 3 倍以上と非常に多く、誘殺時期も平年より 3 半旬早い。今後幼虫の発生時期と野菜や花きの播種・定植時期が重なるため被害が大きくなる恐れがあるので、防除を徹底するため注意報を発表する。

病虫害名 ネキリムシ類 (カブラヤガ、タマナヤガ)

1 注意報の内容

発生時期：幼虫の加害盛期は 5 月 2 半旬から 4 半旬

被害程度：中発、局多発

発 生 量：平年、前年より多い

2 注意報発表の根拠

- (1) フェロモントラップ誘殺数は平年、前年に比べて多く、4 月 6 半旬、5 月 1 半旬に平年比 3.0 倍誘殺された。また、平年は 4 月上旬から誘殺されるが、本年は 3 月 4 半旬から誘殺された (図 1)。
- (2) 5 月の降水量は少ない予想で、本虫の増殖に好適である。
- (3) 今後第一世代幼虫が発生し始め、野菜や花きの播種・定植時期が加害盛期と重なるため、被害が大きくなる恐れがある。

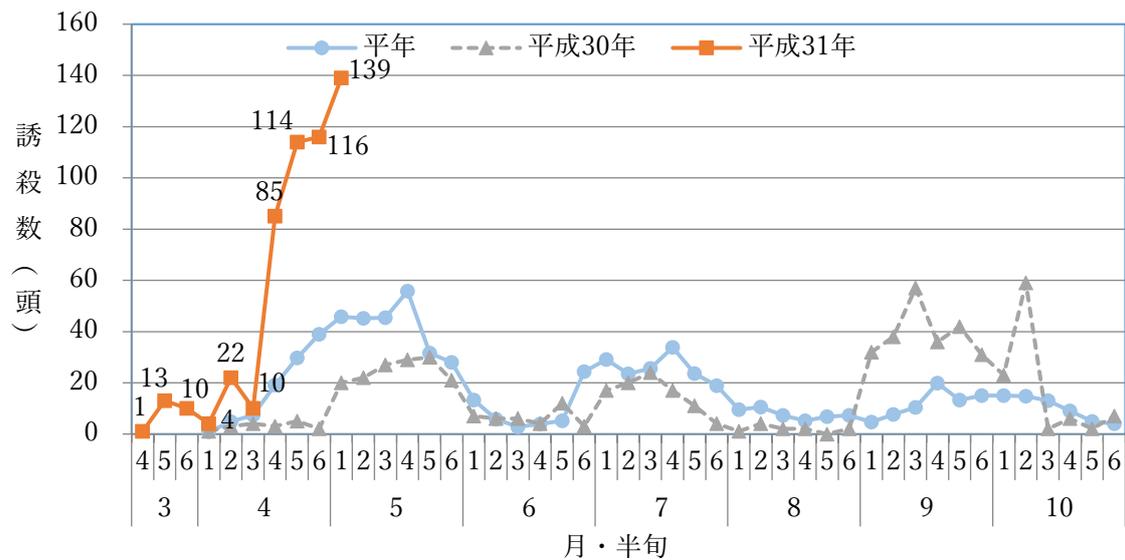


図1 カブラヤガフェロモントラップ（福井市）誘殺数

3 防除対策

- (1) 本虫は地表近くに産卵し、ふ化後の幼虫（図2）は主に雑草を食害するので、播種前や定植前に早めに圃場を耕転するとともに、圃場周辺の草刈りを徹底する。
- (2) 前作が休耕地または雑草地で、耕起して定植する場合や毎年被害が出る圃場では発生が多くなるので、殺虫剤（粒剤）を土壌に処理してから播種・定植する。
- (3) 本虫は農作物の被害が大きくなってから発生に気づくことが多いので、播種後や定植後に圃場内をよく見て回り、早期発見に努め、被害初期に防除を行う（図3）。
- (4) 薬剤の安全使用基準を遵守する。
- (5) 発生が続く場合は、6月に播種するダイズでも被害が出る可能性があるため、チアメトキサム水和剤を塗抹処理して播種する。



図2 カブラヤガ幼虫



図3 ネキリムシ類被害株（キャベツ）

◎主な防除薬剤

・キャベツ

薬剤名	10a あたり使用量	使用時期	使用回数
ネキリエースK	土壌表面株元処理 3 kg	は種時又は定植時	1 回
カルホス粉剤	土壌表面散布土壌混和 6 kg	は種時又は植付時	
ダイアジノン粒剤 3	土壌混和 6～9 kg	収穫 30 日前まで	2 回以内
デナボン 5%ベイト	株元散布 3～6 kg	収穫 14 日前まで	3 回以内

・ブロッコリー

薬剤名	10a あたり使用量	使用時期	使用回数
ダイアジノン粒剤 3	土壌混和 6～9 kg	収穫 30 日前まで	2 回以内

・ダイズ・エダマメ

薬剤名	乾燥種子 1 kg あたり使用量	使用時期	使用回数
クルーザー-MAXX	塗抹処理 8 ml	は種前	1 回
クルーザー-FS30	塗抹処理 6 ml		

・ネギ

薬剤名	10a あたり使用量	使用時期	使用回数
ネキリエースK	土壌表面株元処理 3 kg	収穫 30 日前まで	2 回以内
カルホス粉剤	土壌表面散布土壌混和 6 kg	は種時又は植付時	
フォース粒剤	作条土壌混和 4～9 kg	定植時	1 回
ガードベイトA	株元散布 3 kg	生育初期	3 回以内
ネキリベイト	株元散布 3 g/m ²		

・トウモロコシ

薬剤名	10a あたり使用量	使用時期	使用回数
ガードベイトA	株元散布 3 kg	生育初期	4 回以内
ネキリベイト	株元散布 3 g/m ²		

- ・他の作物については平成 31 年度農作物病害虫防除指針を参照する。
- ・最新の農薬登録状況を確認する。